

第4学年2組 社会科学習指導案

日時 令和5年12月6日(水) 第5校時
授業者 教諭 米山 未来

1 教科等横断的な視点に立った授業づくりについて

(1) 教科横断的な視点で育成したい力(資質・能力)

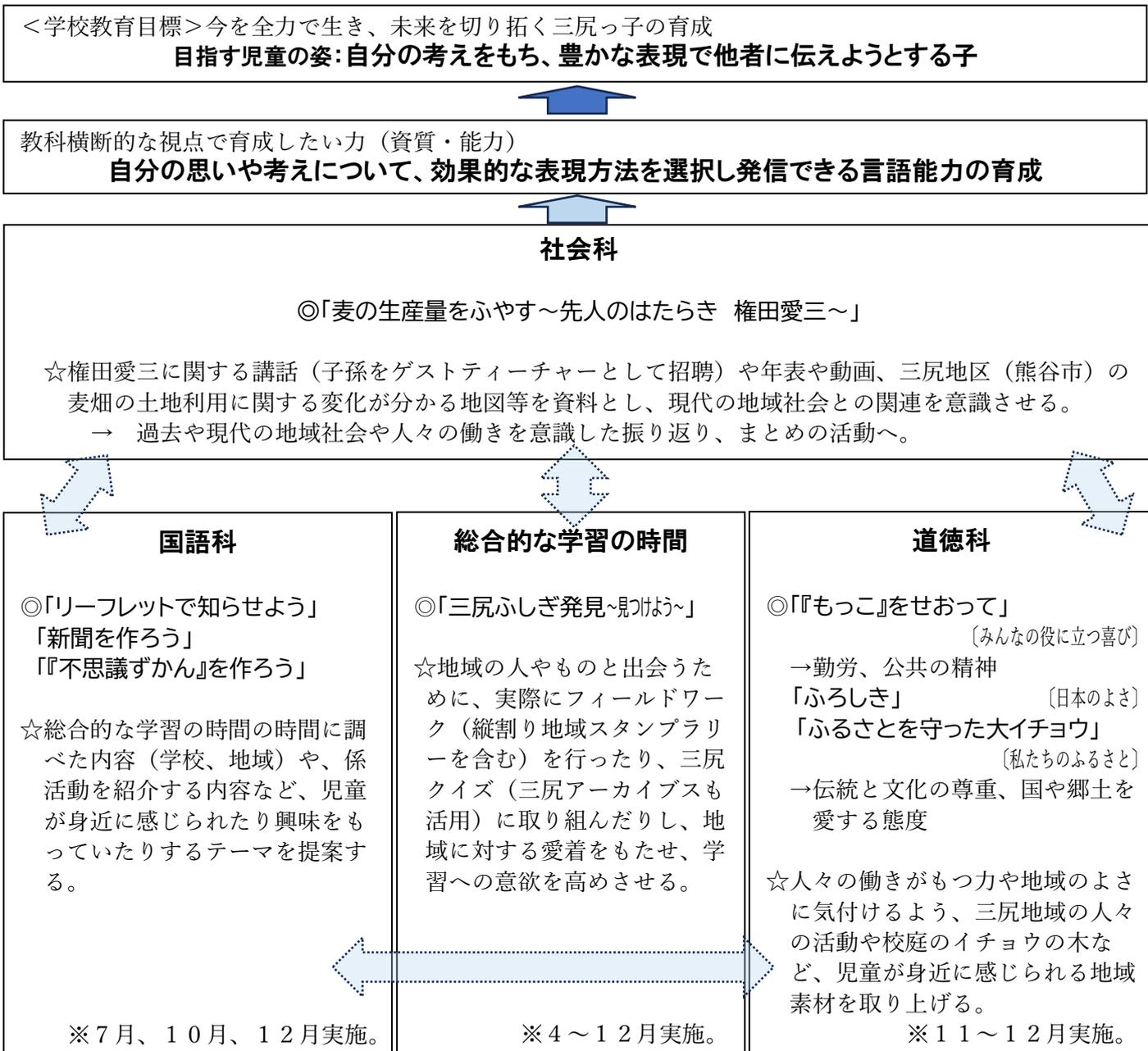
自分の思いや考えについて、効果的な表現方法を選択し発信できる言語能力の育成

(2) 指導上の留意点

- ・社会科学の学習内容を多面的・多角的に捉え、豊かな表現につなげるために、①道徳科と総合的な学習の時間では、地域や働く人々の思いや歴史に視点を当てる。②国語科では、語彙力の強化とともに文章を基にした考えの形成、それらを発信する際の表現手段について児童が自由に選択できる場面を設定する。

※ 本研究における「効果的な表現方法」とは、①学習したキーワードや学習内容に対する思いや考えを、文章を基にして適切に表現すること(毎時間の振り返り・まとめの活動)②新聞・リーフレット・図鑑等(紙かタブレットかの選択も含む)で表現することを指す。

(3) 研究構想図



※◎…特に関連する単元 ☆…教科横断的な視点(授業づくりの工夫・手立て)

2 小単元名「麦の生産量をふやす ～先人のはたらき 権田愛三～」

3 単元について

(1) 教材観

〔第4学年の目標〕

- (1) 自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

〔内容〕

- (4) 県内の伝統や文化、先人の働きについて、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
 - ア 次のような知識及び技能を身に付けること。
 - (イ) 地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解すること。
 - (ウ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめること。
 - イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
 - (イ) 当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きを考え、表現すること。

前小単元「先人のはたらき 埼玉県の先人・偉人」では、埼玉県や熊谷地域における先人（荻野吟子、熊谷直実、渋沢栄一、塙保己一）について調べ、先人の存在や働きの概要について捉える学習を行った。そのことを踏まえ、本小単元では「麦（小麦）」「熊谷市」「ニッソーモール」「籠原駅」という児童にとってより身近なキーワードが関連する先人、権田愛三に着目し、「先人の働きが地域の発展や人々の生活の向上に貢献したこと」や「先人の功績が現代社会にも関係付いていること」を捉えさせたい。

そこで小単元の展開においては、権田愛三の働きを児童に具体的に捉えさせるために、写真や年表、地図などの資料を活用して追究・解決できるようにする。さらに、権田愛三の玄孫である権田宣行氏をゲストティーチャーとして招き、権田愛三が現代の地域社会につながる人物であることに気付かせ、地域に対し愛着や誇りをもてる学習につなげていく。

また、教科横断的な視点からの具体的な手立てとして、「地域への愛着や誇り」については、総合的な学習の時間や道徳科との関連を意識させるために、同時期に授業を行うとともに、教室に学習内容を掲示しておく。それらを踏まえ、国語科との関連では、小単元の学習のゴール（まとめの学習活動）において、効果的な表現方法について児童が選択し、豊かに自分の思いや考えを発信できるようにする。

(2) 児童観

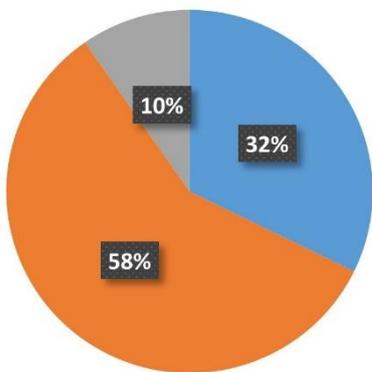
本学級の児童は、社会科の学習が好きな児童が多い。社会科の学習に関するアンケートを行った結果、「社会科の学習は好きですか」という質問に、「とても好き」・「好き」と回答した児童は90%であった。また、日々の学習の様子からは、調べたりまとめたりする活動において特に意欲が感じられる。

さらに、「社会科で自分の思いや考えを発信することができていると感じますか」という質問に、「とても思う」・「思う」と回答した児童は93%であった。児童たちは3年生から今日までの社会科の学習において、毎時間振り返りシートに振り返りを記述してきた。その内容や記述量の変化から一人一人の成長が見られ、主体的に学習に取り組む態度も育まれていると感じる。振り返りの内容は、現代社会とのつながりを意識したものであったり、自分の今後の生活の仕方について関連付けたものであったりすることが多く、学習した社会的事象を現実のものと結び付け、自分の思いや考えを述べるができる児童が多い。また、それらが学習への意欲や自信につながり、アンケートの回答と結びついていると考えられる。

しかし、「社会科と他の教科の学習はつながっていると感じますか」という質問に、「とても感じる」・「感じる」と回答した児童は68%であり、児童が社会科の学習において他教科との関連性をあまり感じていないことが分かった。

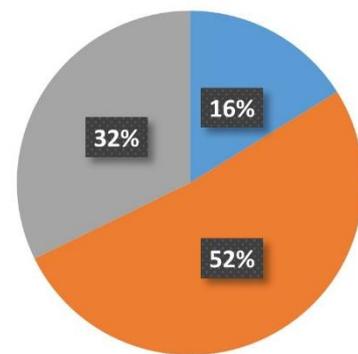
本研究で育成したい資質・能力「**自分の思いや考えについて、効果的な表現方法を選択し発信できる言語能力の育成**」に関連する学びでは、社会科や総合的な学習の時間のまとめの学習活動において、3年生ではグループで新聞（「スーパーマーケットではたらく人々」）、個人でポップ（「工場ではたらく人々」）、4年生では個人で新聞（「水はどこから」）やリーフレット（「三尻不思議発見」）を作成した経験がある。どの活動も意欲的に取り組む児童が多かった。書字を負担に感じている児童もあり、新聞ではタブレットや紙を選択させたり、使用する写真資料などの枚数に幅をもたせたりし（文字の量と関係してくるため）、個別に支援を行っている。

社会科の学習は好きですか



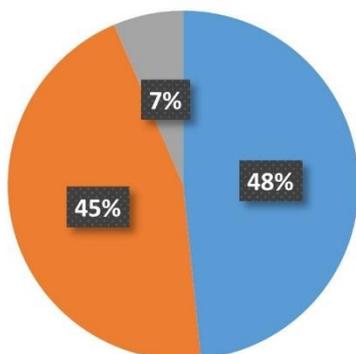
■とても好き ■好き ■あまり好きではない ■好きではない

社会科と他の教科の学習はつながっていると
感じますか



■とても感じる ■感じる ■あまり感じない ■感じない

社会科で自分の思いや考えを発信することが
できていると感じますか



■とても思う ■思う ■あまり思わない ■思わない

社会科に関するアンケート(理由)

【社会科の学習は好きですか】

- ◎場所などの疑問を解くのが好きだから
- ◎今何が起きているか分かるから
- ◎地域のことがいろいろ分かるから。行ってみたいや、やってみたいが増えるから。

【社会科と他の教科の学習はつながっていると感じますか】

- ◎算数のグラフなどは社会で使ったりするから
- ◎国語の教科書で点字ブロックや絵文字があったから
- △学ぶことがぜんぜんちがうから

【社会科で自分の思いや考えを発信することができていると感じますか】

- ◎自分の言葉でまとめられるから
- ◎思ったことなどを振り返りシートで書いているから
- △考えを書く自信がない

(3) 指導観

上記のように本学級の児童は、社会科の学習に好意的であり、また、学習の様々な場面で意欲的に取り組むことができる児童が多く、さらに自分の思いや考えを発信することができていると感じている児童も多い。しかし、その一方で、社会科の学習と他教科との関連性をあまり感じることができない児童が少なくない。これらの児童の中には振り返りやまとめの学習活動が苦手な児童もいる。そこで、本単元では以下の点に留意する。

①表現方法を選択できるまとめの学習活動

まとめの学習活動では、国語や総合的な学習の時間で学んだまとめ方を振り返りながら、「自分の思いや考えが効果的に表現できるもの」を選択させる。自分で選択することにより、まとめの活動がより意欲的なものになると考える。さらに文章表現においても道徳で登場したキーワードなどを想起させ、より適切な語彙を用いて豊かに自分の考えや思いの表現につなげたい。また、他教科での既習事項を活用できるように、実物を提示したり、教室に掲示したりしながら、表現方法の選択を支援していく。

②学習内容を想起できるキーワードやまとめの工夫

振り返りやまとめの活動では、自信をもって文章を書く学習につなげたい。そのために、学習でポイントとなる重要語句（キーワード）を活用することを伝えたり、それらが活用できるよう視覚的に板書に残したりしていく。特に「誰が・何をして・どうなったか」といったことが整理されるよう、毎時間のまとめの文章を児童にとってわかりやすいものにする。

4 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

- ・権田愛三の様々な工夫や努力、人々の生活の変化について、地図や年表などの資料で調べ、必要な情報を読み取り、地域の発展に尽くしたことを理解できるとともに、それらを新聞やリーフレットにまとめることができる。 **【知識及び技能】**
- ・権田愛三と麦の関係について、学習問題や予想、学習計画を考えることができるとともに、麦づくりを全国に広めたり、生産された麦を売る方法を考えたりした先人の工夫や努力を、地域の人々の願いと関連付けて、自分の考えを表現することができる。 **【思考力、判断力、表現力等】**
- ・権田愛三の工夫や努力について、主体的に課題を追究・解決しようとする態度や、地域社会に対する愛着や誇りの気持ちを養う。 **【学びに向かう力、人間性等】**

(2) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①権田愛三の様々な工夫や努力、人々の生活の変化について、地図や年表などの資料で調べ、新聞やリーフレットにまとめている。 ②権田愛三の働きについて、地図や年表などの資料から必要な情報を読み取り、地域の発展に尽くしたことを理解している。	① 権田愛三と麦の関係について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ② 麦づくりを全国に広めたり、生産された麦を売る方法を考えたりした先人の工夫や努力を、地域の人々の願いと関連付けて、自分の考えを表現している。	①権田愛三の工夫や努力について、予想や学習計画を立てたり、自分が知りたい情報を集めたりして、課題を追究・解決しようとしている。 ②権田愛三の工夫や努力について、現代社会や自分の生活と結び付けて考え、表現しようとしている。

5 小単元の指導計画・評価計画(9時間扱い)

	学習活動 ・ 学習内容	【評価の観点】 内容 〈方法〉
つかむ 調べる	① 昔と今の小麦の生産量や人々のくらしの変化と、権田愛三の関りから学習問題を見出す。 ・小麦の生産量の変化 ・人口やくらしの変化 ・権田愛三の経歴(年表)・学習問題、予想、学習計画 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <学習問題> 権田愛三は麦づくりをさかんにするためにどのようなことを行ったのだろうか。 </div>	【思・判・表①】 小麦の生産量やくらしの変化について疑問をもち、学習問題について考えている。〈発言・ノート〉 【態①】 学習問題について、予想や学習計画を立て、見通しをもって追究・解決しようとしている。 〈ふり返しシート〉
	② 権田愛三について、ゲストティーチャー(権田愛三の玄孫)から話を聞く。 ・権田愛三と小麦の関係 ・権田愛三の研究や活動	【態①】 権田愛三についての話を聞き、さらに自分が知りたい情報を集めようとしている。 〈発言・ノート・ふり返しシート〉
	③ 現代の麦づくりの流れについて調べる。 ・土づくり→種まき→麦ふみ→追肥→収穫→乾燥・調整	【知・技②】 麦づくりの流れについて、時期や工程を整理して理解している。 〈ワークシート〉
	④ 権田愛三が行った麦の生産量を増やすための工夫について調べる。 ・麦ふみ ・土入れ ・土づくり ・二毛作 ・広幅薄撒き法 ・生産量が4～5倍に	【知・技②】 権田愛三の麦生産の工夫やその功績について理解している。 〈発言・ノート〉
	⑤ 松本平蔵・真平(松本米穀製麦 創業)が行った小麦粉を売るための工夫について調べる。 ・鉄道(高崎線) ・松本米穀 ・日東製粉(→ニットモール)	【知・技②】 小麦粉の販売に関わった人々の工夫について理解している。 〈発言・ワークシート〉
	⑥ (本時) 麦づくりの広がりの様子から、権田愛三の工夫や努力、功績について考える。 ・『実験麦作栽培改良法』(権田愛三の研究書) ・農事試験場 ・熊谷農業学校(熊谷農業高校の前身) ・全国に広がる麦づくり	【思・判・表②】 麦づくりが全国に広がったことを、権田愛三の工夫や努力と結び付けて考えている。 〈発言・ふり返しシート〉
	⑦ 現在の埼玉県、熊谷市の小麦の生産量を調べ、豊かな食文化とのつながりについて話し合う。 ・埼玉県の小麦生産高 ・小麦粉の給食メニューや料理(すいとん、フライ、うどん、炭酸まんじゅう) ・熊谷うどん ・熊谷小麦産業クラスター研究会(→松本米穀との関連)	【思・判・表②】 現在の食文化について、権田愛三の工夫や努力と結び付けて考えている。 〈発言・ふり返しシート〉
まとめる	⑧ 学習問題の結論を学級で導き出し、小単元の学習について自分が選択した表現方法でまとめる。 ・結論を導き出すためのキーワード (麦ふみ、二毛作、品種、生産量、全国など)	【知・技①】 権田愛三の工夫や努力、人々の生活の変化について、新聞やリーフレットにまとめている。 【態②】 権田愛三の工夫や努力について、現代社会や自分の生活と結び付けて考え、表現しようとしている。 〈新聞・リーフレットなど〉
	⑨ <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <学習問題に対する結論> 権田愛三は、麦ふみや二毛作を行ったり、よい品種を開発したりして、小麦の生産量をふやし、さらにその方法を全国に広め、麦づくりをさかんにした。 </div>	

6 本時の学習指導（6／9時間）

（1）本時の目標

- ・麦づくりが全国に広がったことを、権田愛三の工夫や努力と結び付けて考えることができる。

【思考力・判断力・表現力等】

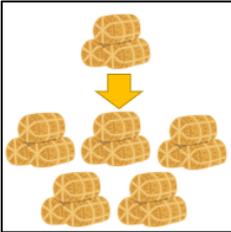
（2）本時の展開

学習活動 ・ 学習内容	○指導上の留意点 評価〈方法〉	・ 資料等
1 前時までの学習内容を振り返る。 2 本時の課題をつかむ。	○児童のふり返しシートの内容を紹介や既習事項の資料を提示する。 ○資料から疑問をもたせ、課題につなげる。 ※長年にわたり社会に奉仕する活動（ボランティア活動）に従事し、顕著な実績を挙げた人物に授けられる。	・ 権田愛三の年表 ・ 権田愛三が勲章（緑綬褒章※）を授けられたエピソード ・ 麦作地の広がりが見分かる地図
権田愛三は、どのようにして麦づくりを全国に広めたのだろうか。		
3 資料 A、資料 B に分かれて調べる。 資料 A：『実験麦作栽培改良法』や農業学校・農事試験場と権田愛三 資料 B：全国の人々と権田愛三 ※両資料に権田愛三が説明している吹き出しを付け、調べたことをその吹き出しに書き入れるようにする。	○資料は児童が選び、時間内であれば両方取り組んでもよいとする。 ○ワークシートは紙と Metamoji のどちらでもよいことを伝える。 ○吹き出しには資料から分かったことを入れるよう伝える。	・ 日本地図（鉄道の広がりが見分かるもの） ・ 『実験麦作栽培改良法』 ・ 農業学校（現・熊谷農業高校） ・ 農事試験場 ※資料は個人で一枚、グループに拡大したものを用意する。
・ 全国の人々とのつながり（講演、手紙、訪ねてくる人々） ・ 研究書の内容、無料配布 ・ 農業学校・農事試験場の設立 → 全国に広がる麦づくり	○読み取った資料を示すことも伝える。 ※拡大資料を使用させる。 ○自分が書いた吹き出しに、付け足しや修正を加える時間とする。	
4 資料 A、資料 B でそれぞれグループを作り、吹き出しに書いた内容を確認し合う。	○読み取った資料を示すことも伝える。 ○両資料の吹き出しを完成させる時間とする。	
5 資料 A と資料 B の混合するグループを作り、吹き出しの内容を伝え合う。	○両資料の吹き出しの内容を全体で確認し、権田愛三の活動についてまとめる。	
6 まとめをする。		
権田愛三は、麦づくりの研究を進めながら、全国各地で麦づくりの講演をしたり自分で書いた本を無料で配布したりして麦づくりを全国に広めた。		
7 振り返りをする。	○前時までの学習内容にも触れ、権田愛三の工夫や努力に着目し、振り返りシートに記入をさせる。	
8 今後の学習への見通しをもつ。	○麦づくりの広まりを人々の暮らしの変化に目を向けさせていく。	

7 板書計画

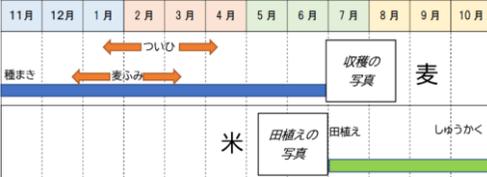
権田愛三の
写真

ごんだあいぞう
権田愛三



「麦王」
・麦の生産を
4～5倍に
↓
・地域の人々の
くらしを
ゆたかにし
た

米と麦の二毛作カレンダー



- <新しい麦づくりの方法>
- ・麦ふみ
 - ・土づくり
 - ・土入れ
 - ・二毛作
 - ・広幅うすまき法

12/6
(水)

権田愛三は、どのようにして麦づくりを全国に広めたのだろうか。

資料 A

『実験麦作栽培改良法』や
農業学校・農事試験場と権田愛三

※文字+写真資料

資料 B

全国の人々と権田愛三

※文章+日本地図の資料

年	主なできごと
1850	大里郡東別府に生まれる
1871	ひ料と藍で商売をする
1877	東別府村の戸長(村長のよ うなもの)となる
1889	二毛作の研究をする
1894	研究をすすめ、麦を4～5 倍しゅうかくする
1913	各地へ出張して麦作につ いて講演する
1923	「実験麦作栽培改良法」を 自ら出版し、2500 冊を 無料で配る
1928	79歳でなくなる

わたしは、
『実験麦作栽培改良法』
を無料で希望者に25
00部配ったり、よりよ
い麦を作るために学校
や試験場で研究を行っ
たりして
麦づくりを広めました。

権田愛三の
写真

わたしは、
岩手から鹿児島まで全
国各地で講演をしたり、
自分のところに来てく
れた人々に指導をし
たり、手紙に返事を書い
たりして
麦づくりを広めました。

権田愛三の
写真

権田愛三は、麦づくりの研究を進めながら、全国各地で麦づくりの講演をしたり自分で書いた本を無料で配布したりして麦づくりを全国に広めた。